Murata High School 100th Anniversary

百年通信

No.1　2024, 4, 10 発行

創立100周年記念実行委員会

村田実科高等女学校 開校！

1924(大正13). 4. 10 AM9:00　その時歴史は動いた

背景

まず ①「第一次世界大戦での日本の急激な産業の発展が，国家として社会を支える比較的高い教育を受けた中堅的部分を促成的に育成することを要請していた」

そして ②「藩政時代から物資の集散地として賑ってきたとはいえ，鉄道沿線から外れ産業の発展から取り残される兆しのあった村田町にもこの波は及んだ」

村田町内で中学校（男子校）設立機運が高まるが，打ち続く恐慌（戦後・震災・金融・昭和）のなか，この構想は実を結ばなかった。一方で，女子教育熱の向上に応えるため，実科女学校（小学校に併設され専任教員も僅かで町の負担も軽い）設置への動きは着々と進行し，1924年3月27日付文部省告示により，村田実科女学校は設立が認可された。

開校式 及び 入学式

村田小学校 講堂

1924（大正13）年4月10日午前9時

入学者数42名であったが，14日に3名，15日に5名が入学し，（開校式後も入学者募集が続けられていた）開校年度は50名で始まった。［修業年限は2年］

履修教科は，修身・国語（講読・作文・習字）・数学・家事・裁縫・図画・唱歌・手芸・農業・体操の10教科で，家事・裁縫・手芸などの実科系の教科が重視された。

第一回卒業証書授与式 挙行
1925年（大正15）3月25日

第一回卒業生３８名が社会へ送り出された

開校4年の校史

1924（大正13）年度
- 4/10　開校式 及び 入学式　新調の机・椅子到着
- 11　授業開始
- 22　小学校との連合春季運動会（相山運動場）
- 5/ 7　春季遠足（玉浦村二ノ倉浜方面）
- 6/ 2　この日から午前８時始業
- 4　この日から９日間，第一農繁期休業
- 16　この日から２９日まで，第二期農繁期休業
- 7/31　第１学期終業式　8/31まで夏季休業
- 10/16　秋季連合運動会
- 31　「教育勅語」奉読会
- 12/27　第２学期終業式　1/5まで冬季休業
- 2/23　学芸会を小学校と共同で開催
- 3/10　陸軍記念日　講話の後，忠魂碑参拝
- 25　修業証書授与式　修了者50名

1925（大正14）年度
- 4/ 6　始業式 及び 入学式　入学者28名
- 5/13~16　修学旅行（東京方面）第２学年23名と職員3名
- 22　海軍記念日　忠魂碑参拝
- 7/ 7　小野訓導追悼会
- 3/25　第一回卒業証書授与式　卒業生38名

1926（大正15・昭和元）年度
- 7/28　生徒有志22名　蔵王登山　翌日帰校
- 12/ 8　新調のピアノ到着
- 3/25　第二回卒業証書授与式　卒業生31名

1927（昭和2）年度
- 4/ 4　始業式 及び 入学式　入学者23名
- 5/31　円田村大火 生徒罹災2名 生徒総代2名慰問
- 25　修業証書授与式　修了者50名
- 3/24　第三回卒業証書授与式　卒業生29名

❑ 創成期の何やかや 《生徒 目玉行事》

実科女学校時代の思い出　1935(昭10)年度卒 談

クラスは24人で，1年生と2年生で教室が2つと作法室があるだけです。小学校に間借りだったので，校長先生始め，修身・珠算の先生は小学校の先生方が兼務でした。家事，裁縫，国語の先生だけ専任です。体操場も小学校と同じで小学生と一緒になって体操することもありました。運動会は小学校，高等科1・2年生，実科女学校と町内上げての大運動会でした。みんな相山グランドの観覧席を取るために朝早く行ってゴザやムシロを敷いて置き，家族が来るまで火を焚いて待っていたものです。町内の人みんな相山へ登っての応援で，見事な大運動会でした。

あの頃は，洋服などあまり着ませんので，羽織・袴が制服で下駄を履いて学校へ通いました。月謝は50銭でした。小学校で義務教育が終わるのに高等科，実科女学校へ通う人は贅沢な方でした。

畳敷の作法室がありまして，戸の開け方，閉め方から座り方，立ち方，座布団のすすめ方，お茶の出し方，頂き方を教えられました。その時は白足袋を持っていき，はき替えて静かに落ちついて一人ひとり指導していただきました。

親から「勉強しなさい」など 一度も言われませんでした。農家だったので全部手作業でした。蚕，米，麦が主体だったので，大変忙しく，蚕の季節になると家中の室が皆蚕場になるので寝るところもなかった位でした。学校から帰るとすぐ母の手伝いをさせられたものでした。

蔵王登山（1926～1943）

蔵王登山が始められたのは，1926(大正15)年7月28日のことである。蔵王は昔から女人禁制の霊山であったが，そうした禁制もこの頃には力を失っていたのであろう。

卒業生 談

「当時は，禁制があって「お山」は個人では行かれなかったのです。蛾々温泉に一泊し，午前2時に起床して三途の川を渡って御来光を両手を合わせて拝んだのです。それが登山の一番の思い出です。ズックを履いて，紐で体を結びあって，難儀をして登りました。」

元教諭 談

「楽しい思い出といえば，心身の鍛錬を目的とした蔵王登山であった。現在と違って全行程を徒歩で，ひぐらしの鳴く山道を行き蛾々温泉に一泊。夜中に起きて真暗い中，懐中電灯を照らしながら石だらけの狭い山道を登った。賽の河原での朝食は，食料難の時代でおにぎり2個と水だけ，食べている周囲にどこからともなくたくさんの金蠅がうるさく群がってきたのを覚えている。生徒とともに山で食べたあの味は忘れられない。」

この行事は1943(昭和18)年まで続けられた。

全行程（学校 ⇄ 刈田岳）徒歩での「蔵王登山」復活はあるのか？

「空と君とのあいだに」(内田より)

中島みゆき作「空と君とのあいだに」 良い人になりすました男性に好意を寄せてしまう女性。その関係を女性の愛犬目線で綴った名曲である。

ところで「なりすまし」は，他人のふりをして人を欺くことであるから，極一部の例外を除けば,犯罪行為である。誠実一路のウチダではあるが,かつて,「なりすまし」を行ったことがある。

高２の時である。学校（男子校）が好きで学校を楽しみたい２年５組(ウチダ在籍)では,年度始めに何か面白いことをしようと考えていたところ,転任してきた二人の先生の最初の授業が同じ時間（2-5英語・2-7数学）になっていることに気づいた。「しめた！ やれる !!」我々は７組と示し合わせて,クラス全員（45人）,その時間そっくり入れ替わったのである。最初の授業なので出席の確認もあったが,２クラス全員が別人になりすまし,皆まじめに授業を受けた。大成功！であった。当たり前だが,その日のうちにこの事が発覚し,帰りのSHRでは,担任の先生から延々と説教があった。犯罪にはならないなりすましとはいえ,よろしくないことではあった。ただ,転任してきた先生に「人のせいにはせず,責任を取る覚悟で何でもやってみる」という生徒の気風を伝えることができたとは思う。もちろん,その後,我々が先生たちと本気で授業に取り組んだのは言うまでもない。

さて,桜咲く４月は初めての出会いが重なり,誰しも一年で最も緊張が続く時期である。学校でも新入生と転任した先生はすべて「初めまして」から始まる。初対面では,自分をつくろったり偽ったり，無理をした自分（本当の自分ではない「別人になりすましている」ことになる）をつくり出してしまうこともある。だが,そんなことは長続きせず,心の負担が大きくなり,辛くなっていくだけだ。飾らず,ありのままで接し,関係性をつくっていくことで,互いに支え合い,頑張り合える友人に巡り合えるのである。特に,新入生には互いに高め合う,かけがいのない友人をつくってほしい。友人によって高校生活・卒業後の人生は大きく変わる。２･３年次生は,今の友人関係が,お互いを高め合う関係になっているかをよく考えてみる必要がある。なっていなければ,その友人関係は,築き直した方がいいだろう。友人関係に「冷たい雨が降る」ことがないように ････ 。